四国森林管理局 森林技術・支援センター

次世代につなげる森林づくり

NO.１６

平成 26 年 6 月 24 日

「平成二十七年度 第一回技術開発委員会」を開催する。

審議五課題に対して貴重な意見が活発に！

◆六月十六日、今年度第一回目の「技術開発委員会（有識者による委員で構成）」を局二階会議室で開催しました。なお、本委員会に先立ち、六月九日、「技術開発連絡会議」を開催、局関係課間での連絡・調整を実施しています。

6.9局内の連絡会議の様子

6.16技術開発委員会の様子

◆今回の審議課題は、①保育作業の省力化による森林育成技術の確立②下刈省略化によるシカ食害低減効果の検証③エリートツリー植栽による下刈省力化試験及びシカ食害クリップ効果の検証④小型囲いわなによるシカ誘引・捕獲の向上と普及の推進（新規課題）⑤竹を利用したシカ害対策について（新規課題）の五課題です。

◆各委員から出された主な意見としては、

◆課題①

・人工林の再造林地は保育作業省略化でも成林する可能性が高い、一調査地内で保育作業量に差異がある場合は把握分析をする。

・ネット施工内の被害地では、原因の分析等により被害の防止に繋げること。

① ７年目の保育省略区（２回下刈）

①成長した苗木

◆課題②

・今後ネットを外す計画だが、外周を刈り払わず残し（巾５ｍ位）中下層植生の繁茂は十分と判断。

・成長調査では、シカ・ウサギ被害技術は除外する方が賢明。

・開発期間は５年間は必要。

②下刈り省力化試験地

③シカクリップ（頂芽保護、側枝被害）

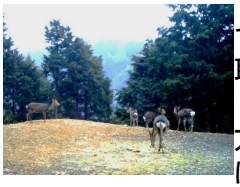
◆課題③

・シカクリップ効果の検証で、箇所別食害履歴に健全度調査を追加したことは評価できる。

・コンテナ苗と普通苗の食害比較は更に詳細な分析をすること。

◆課題④

・シカ捕獲地等の植生データは重要で取り方は工夫すること。



④シカの餌付け

④シカの捕獲

◆課題⑤

・初年度は、食害に有効なタイプの検証ということだが、当初からコスト意識を持った計画とすべきではないか。

⑤割竹とリンロンテープを利用した単木苗木保護

各委員からは、多くの貴重な意見が出されました。今後、センターではこれらの意見等を踏まえ技術開発・普及に活かしていく考えです。

なお、技術開発課題内容については、当センターのＨＰに紹介（平成二十七度版七月上旬）することとしています。

◇技術開発委員会委員（有識者七名）の紹介

◆**奥村栄朗**（野生動物）
国立研究開発法人森林総合研究所四国支所チーム長

◆**酒井敦**（人工林保育管理）
国立研究開発法人森林総合研究所四国支所チーム長

◆**三浦真弘**（育種）
国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター関西育種場育種課研究室長

◆**石川和男**（自然環境）
松山東雲女子大学名誉教授

◆**野地清美**（森林技術）
高知県立森林技術センター所長

◆**杉山純之**（民間林業）
住友林業(株)新居浜山林事業所長

◆**金城芳典**（野生動物）
特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター副センター長